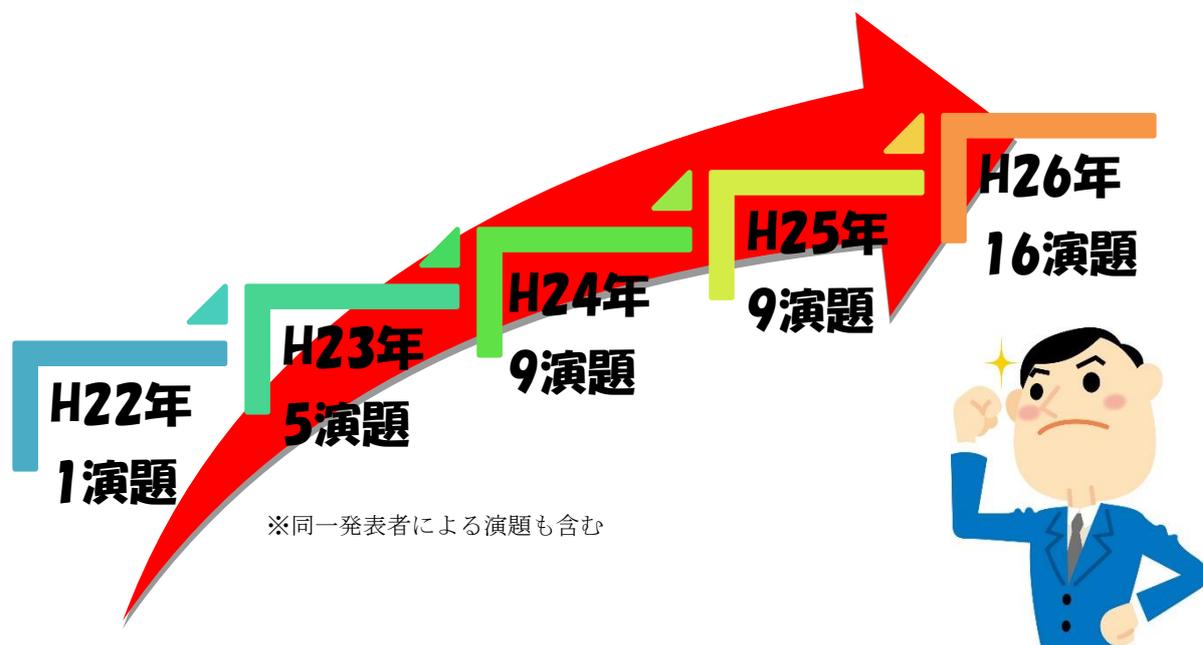


《 研究活動について 》

今回は当院リハビリテーション課で活発に行われている学会発表について
ご紹介します！当院では年間を通じて多くのスタッフが発表をしています。



発表の内容は・・・

症例報告から評価方法の検討、予後因子の検討など多岐に渡ります。

肩甲下筋腱断裂の有無が術後成績に及ぼす影響について

日本肩関節学会

ニーズに合わせた介入が生活の幅を広げた一症例～心が動けば体が動く～

リハビリテーション・ケア合同研究大会

A-ONEの信頼性に関する検討

日本高次脳機能障害学会学術総会

絶食から3食経口摂取に至った廃用症候群患者の諸因子に関する検討

日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

左前頭葉髄膜腫術後に仮名の脱落を主とする書字障害を呈した一例

近畿高次神経機能研究会

発表を行うことは簡単ではありません・・・

日々の業務とは別に「研究」「発表」をすることは、
正直大変な時もあります…



でも！！なぜ発表をするのでしょうか？？

臨床で疑問に思ったことをより深く勉強・検討してみたかったから

大勢の人に聞いてもらうことでアドバイスや違った視点からの意見がもらえるから

臨床力を養い、より患者さんの為になるリハビリが提供できるようにしたいから

症例発表という形でまとめる事で振り返ることができるから

興味を持っている分野の最新の情報を得られるから。たくさんの刺激を受け、明日への活力になるから

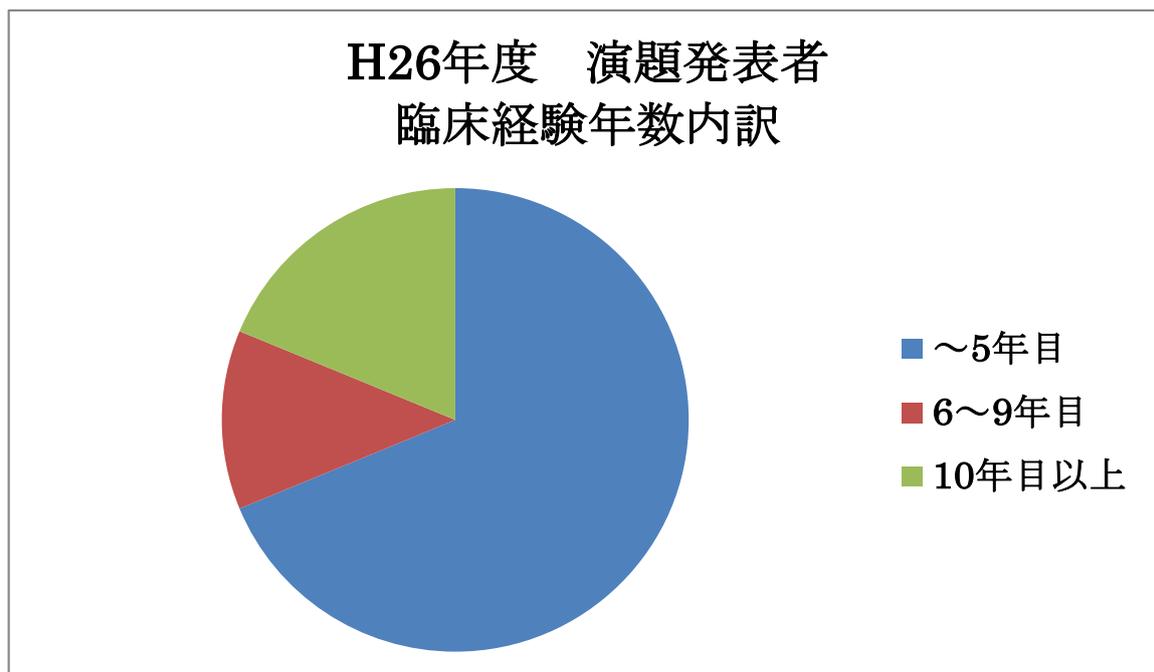
理由は様々ですが、患者様により良いリハビリが出来るように・・・

より患者様のことを考えられる療法士になれるように・・・



前向きな気持ちで
研究や発表を行っています！！

☆発表者はベテラン療法士ばかりではありません！！☆



経験年数の少ない療法士も研究や発表に取り組める環境が、
ここ！！東大阪病院にはあります！！

その1 : 指導してくれる先輩療法士が沢山います！

研究・発表にあたり、戸惑うことは沢山あります・・・。

- ・スライドの作り方が分からない。
- ・全体のまとめ方が分からない。
- ・自分の考えを簡潔に分かりやすくまとめるのが難しい
- ・プレゼンの仕方が分からない。
- ・統計学や参考文献等の資料収集が難しい

などなど



そんな時に！！

忙しい中でも快く、様々な配慮をしながら指導して下さる方がいる環境はとても貴重だと思います。高い志を持った、経験豊富な先輩の指導は、発表だけでなく様々なことを教えてくれます。

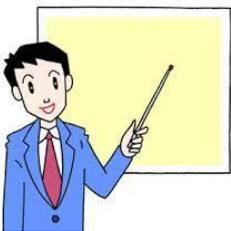
《指導者側の意見》

スライドをいかに見やすくするか、スライドと口述内容を上手く合わせていかに聴衆の頭に入りやすくするか、考察部分で飛躍しすぎずにいかに上手く伝えるか。誰もが苦手なことです。めげずにTryしていけばみんなすぐく上達していきます。

発表者の個性をつぶさないように意見しています。



その2 : 本番さながらの練習（予演会）が出来ます！



一通り内容が出来た段階で予演会を行います。職種は関係なく多くのスタッフが参加するこの予演会はまさに本番さながら！！より良い発表にするにはどうしたら良いか、様々な視点から検討が行われます。もちろん質疑応答対策もできます！

また、発表する側だけでなく、聴く側も勉強になり、良い刺激をもらえる機会となっています。

その3 : 学会参加費の一部を病院が負担してくれます！

条件はありますが、遠方での開催の場合などでは大変助かります。



病院も、学会参加による
社会への貢献や
療法士の成長を
理解しているからなのです



もちろん！！

発表をすることが第一ではありません。

発表をするために患者さんと関わる訳でもありません。

でも・・・

エビデンス（根拠）を持ちながら日々患者さんと関わる事はとても大切ではないかと思います。自分の介入方法を多くの人に向けて発信し、振り返る事も、「より良いリハビリを患者さんに提供出来る療法士になる」一つの方法なのではないでしょうか？



最後まで読んで頂きありがとうございました。

次回は「機能評価に臨んで」です。